

## 企画の狙い

最近では採用選考を行う際、受験者にエントリーシートを課す企業が増えています。公正な基準に則ったエントリーシートを活用することは、採用選考の新たな可能性につながる反面、それにまつわる問題事例も発生しています。予断や偏見を取り払い、適正と能力のみを判断基準とする公正な採用選考をすることが大切です。この作品では、エントリーシートのあり方を考えることをきっかけに、採用選考担当者にとって必要十分な、公正採用選考のための情報を紹介していきます。

## 内容

5年ぶりに人事部に復帰した大島は、久しぶりに新入社員の採用に関する資料を見て、不適切と思われる内容を発見した。エントリーシートの応募入力欄に、「スリーサイズ」「血液型」の項目があったのだ。会社に入るのに、どうしてそんなことを書かないといけないのか?おかしいと思った大島は、上司の谷に相談するが、真面目に取り合ってもらえない。

大島の部下である智子も、当初は大島からの指摘を気にも留めなかった。就職難の時代、志望する会社から書くように指示されたら、少くらいおかしいと思っても書くだろうと。しかし、よく考え調べていく内に、大島と同じく疑問を抱きだす。智子は大島に、実際の面接でも不適切な質問が、うっかりと行われている実態を告白する。

このままではいけないと感じた大島は、智子とともに、谷を模擬面接会場に呼び出した。おかしいと思われるエントリーシートの記入事項や、面接での質問項目が、なぜいけないのか? 問題点をはっきりと認識するため、人事部員同士でロールプレイングを行おうと提案したのだ。面接官役となった大島と智子は、受験者役の谷に、あえて就職差別につながりかねない質問を投げかけた。理解のない自分に対する当てつけと感じた谷は、椅子から立ち上がり怒鳴りだす。それではと、自ら受験者役を志願する智子。面接官役の大島は改めて、就職差別につながりかねない質問を、智子にぶつけていく。そのやりとりの中で、次第に不適切な質問事項の問題点が浮かび上がり、公正な採用選考の重要性を実感していく3人だった。

